

# 飼料用米生産と家畜給与の採算性

研究企画部

## 1 背景・目的

米の生産調整が拡大するなかで、農業者戸別所得補償制度の戦略作物として飼料用米の生産が推進されており、水田の有効利用と畜産農家への安定した飼料供給が期待されています。しかし、飼料用米生産の採算性や飼料用米を給与した畜産物生産費への影響、さらに消費者の評価等、米を家畜飼料として利用した場合の経済性は不明な部分が多いのが現状です。

ここでは飼料用米先進モデル事業（福岡県飼料用米推進協議会：平成 21、22 年度）での飼料用米生産、及び養豚での飼料用米給与を素材に、飼料用米の採算性を明らかにしました。

## 2 成果の内容、特徴

- 1) 大規模稲作経営（作付面積 7 ha 以上）における飼料用米 1 kg 当たり生産費は、単収 630kg（玄米）で 150 円程度です。10a 当たりの生産費 97,800 円は、品代（20,160 円）と水田活用の所得補償交付金（80,000 円）で賄うことができます（図 1）。
- 2) トウモロコシの代替として飼料用米を 10%配合（トウモロコシの 20%）した飼料の製造費は、慣行の配合飼料よりトン当たり 1,400 円高く、養豚農家の購入価格では 1,500 円高くなります（図 2）。
- 3) 上記配合飼料を養豚の肥育後期（約 60 日間）に給与すると、肥育豚 1 頭の後期肥育飼料費は 5,910 円から 6,180 円へ 270 円（4.5%）、肥育期飼料費では 9,440 円から 9,710 円へ 270 円（2.9%）増加します。飼料費の増加分をすべて精肉生産費に転嫁すると、精肉 1 kg 当たり生産費は 5.2 円高くなります（図 2）。
- 4) 一般の豚肉に比べ飼料用米を給与した豚肉を、同価格に評価する消費者は 7 割で、高価格に評価する消費者は 3 割です（図 2）。

### 3 主要なデータなど

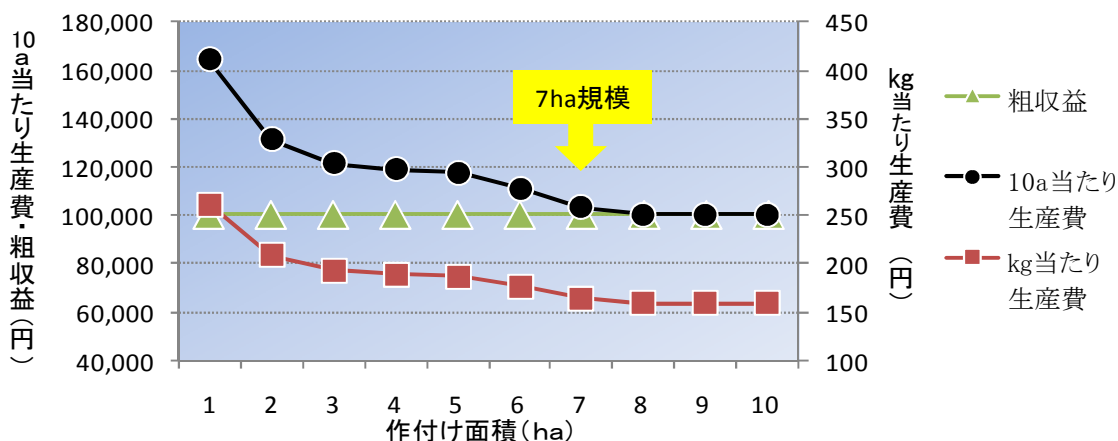


図 1 飼料用米の規模別生産費

注) 飼料用米先進モデル事業平成 21、22 年度の飼料用米生産実証試験をもとに、10a 当たり平均収量を 630kg にして作成。粗収益は品代 20,160 円と水田活用の戦略作物助成 80,000 円の合計 100,160 円。

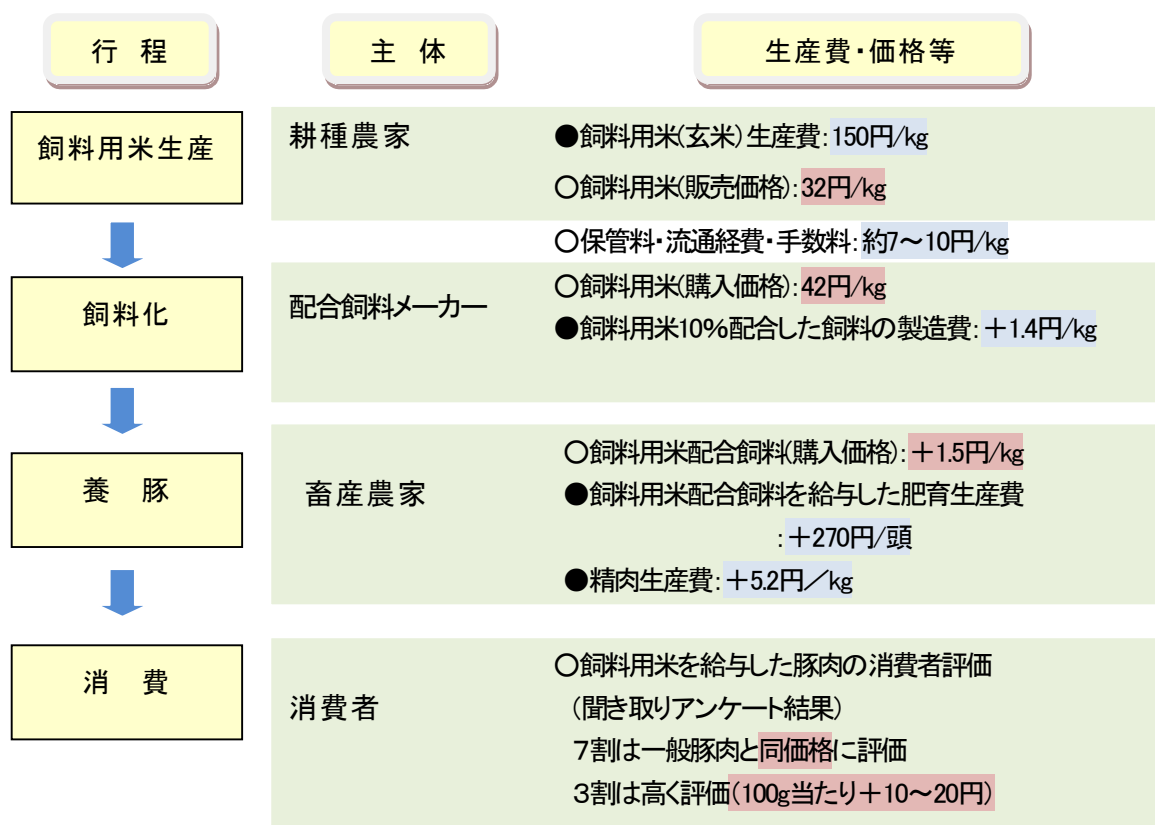


図 2 飼料用米の各行程ごとの費用・価格

- 注) 1. ●は生産費、製造費。○は価格  
2. 飼料用米先進モデル事業の飼料用米生産実証試験の平均値で、水稻作付 7 ha 以上の 3 戸平均。単収 630kg、10a 当たり生産費 97,800 円。  
3. その他、調査条件については「農業関係試験研究の成果(平成 23 年度前期に取りまとめた成果)」を参照。